

第4回日本時間生物学会学術大会の開催にあたって、以下の企業に協賛していただきました。
ここに厚く御礼申し上げます。

エーザイ株式会社

三菱化学株式会社

明治製菓株式会社

三共株式会社

旭化成工業株式会社

大正製薬株式会社

藤沢薬品工業株式会社

塩野義製薬株式会社

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

エスエス製薬株式会社

ゼリヤ新薬工業株式会社

吉富製薬株式会社

松下電工株式会社

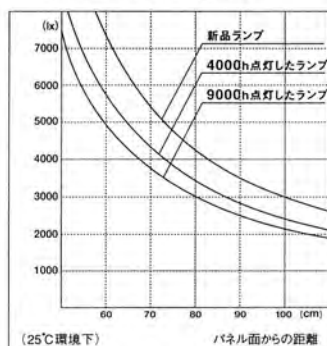
早稲田大学

低グレアで、2,500ルクスの高照度。

まぶしさを抑えながら、2,500ルクスもの高照度を実現。冷却用ファンを搭載し、ランプ温度上昇による光量の低下を防止。明るく、安定した刺激光を与えることができます。さらに、可搬性に優れた、コンパクトな軽量設計です。

高照度が持続。

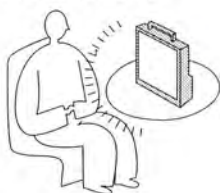
ナショナル独自の点灯技術により、9,000時間点灯後でも2,500lx以上の照度を確保します。(パネル前面70cm)



注) 照度低下については使用状況により多少のばらつきがあります。

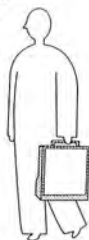
まぶしさを低減。

まぶしさを抑える乳白パネルを採用。チラツキの少ないインバータ点灯方式とあわせて、目にやさしい仕様です。



移動・収納が簡単。

取っ手の採用や、コード引掛部を設けることで、持ち運びや収納がラクな設計。様々な場所でご活用いただけます。



ナショナル 光刺激装置

ST 6000 医療用具承認番号 20900BZZ00531000

●使用電源：AC100V50/60Hz共用 ●入力電流：2.27A ●消費電力：219W ●初期照度：3000 lx±30% (パネル前面1mの位置) ●本体重量：9.6kg ●本体寸法：全高512、幅460、台座部185×460mm、コード長さ2.8m ●使用ランプ：ナショナルランプ・ツイン1蛍光灯FPL36EX-N×6灯 ●仕様：前面乳白パネル、インバータ点灯方式スイッチ付(全灯→減)、可搬用持ち手付、アース付(3Pプラグ仕様)

●ご使用は医師の指示に従ってください。

A&I
快適を科学します

新人間光学

速やかな入眠効果が得られる……………

睡眠導入剤

向
背
指
要
指

サイレース®

錠1mg・錠2mg

〈フルニトラゼパム製剤〉

特性

1. 入眠効果の発現が速やかである
2. 入眠障害、熟眠障害、早朝覚醒を改善する
3. 各種原因による不眠に対して奏効する
4. 副作用は7.55% (567/7, 505例)、主なものは眠気、ふらつき、倦怠感。(1989年12月)

効能・効果：不眠症、麻酔前投薬



薬価基準収載

使用上の注意

1. 一般的注意

本剤の影響が翌朝以後におよび、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがあるので、自動車の運転等の危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。

2. 禁忌 (次の患者には投与しないこと)

- (1) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- (2) 急性狭隅角緑内障の患者
- (3) 重症筋無力症の患者

3. 原則禁忌 (次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること)

肺気腫、肺気腫、気管支喘息及び脳血管障害の急性期等で呼吸機能が高度に低下している患者

4. 慎重投与 (次の患者には慎重に投与すること)

次の患者には少量から投与を開始するなど注意すること。

- (1) 衰弱患者
- (2) 高齢者
- (3) 心障害のある患者
- (4) 肝障害、腎障害のある患者
- (5) 脳に器質的障害のある患者
- (6) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人
- (7) 乳児、幼児、小児

5. 相互作用

併用に注意すること

アルコール、中枢神経抑制剤 (フェノチアジン誘導体、バルビツール酸誘導体、鎮痛薬、麻酔薬等)、モノアミン酸化酵素阻害剤、シメチジン

6. 副作用 (まれに：0.1%未満、ときに：0.1~5%未満、副詞なし：5%以上又は頻度不明)

(1) 重大な副作用

- 1) 依存性 大量連用によりまれに薬物依存を生じることがあるので、観察を十分に行い、用量を超えないよう慎重に投与すること。また、大量投与又は連用中における投与量の急激な減少ないし投与中止により、まれに痙攣発作、ときに譫妄、振戦、不眠、不安、幻覚、妄想等の禁断症状があらわれることがあるので、投与を中止する場合には、徐々に減量するなど慎重に行うこと。
- 2) 刺激興奮、錯乱 精神分裂病等の精神障害者に投与すると逆にこのような症状があらわれることがある。
- 3) 呼吸抑制、炭酸ガスナルコーシス まれに呼吸抑制があらわれることがある。また、呼吸機能が高度に低下している患者に投与した場合、炭酸ガスナルコーシスを起こすことがあるので、このような場合には気道を確保し、換気をはかるなど適切な処置を講ずること。

(2) その他の副作用

1) 精神神経系

- ① 中途覚醒時の出来事を記憶していないことがある。
- ② ときに眠気、めまい、ふらつき、運動失調、頭痛、頭重、頭がボーッとする、また、まれに失調性歩行、不快感、焦燥感、不安感、構音障害、しびれ感、耳鳴り、動作緩慢、記憶力の低下、酩酊感、振戦があらわれることがある。

- 2) 肝臓 ときにGOT、GPTの上昇、また、まれにLDH、Al-Pの上昇があらわれることがある。

- 3) 腎臓 まれにBUNの上昇があらわれることがある。

- 4) 血液 まれに貧血、白血球減少、血小板減少があらわれることがある。

- 5) 循環器 まれに動悸、血圧低下があらわれることがある。

- 6) 消化器 ときに口渇、また、まれに嘔吐、胃部不快感、食欲不振、下痢、便秘、腹痛、舌のあれ、胸やけ、流涎、口の苦味があらわれることがある。

- 7) 過敏症 まれに発疹等があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

- 8) 骨格筋 ときに倦怠感、脱力感があらわれることがある。

- 9) その他 ときに尿失禁、また、まれに発汗、いびき、顔面紅潮、顔面浮腫、排尿困難、頻尿があらわれることがある。

7. 高齢者への投与

高齢者では、運動失調等の副作用が発現しやすいので、少量から投与を開始するなど慎重に投与すること。

※8. 妊婦・授乳婦への投与

- (1) 妊娠中の投与に関し、次のような報告があるなど安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、投与しないことが望ましい。

- 1) 妊娠動物 (ラット) に投与した実験で、50mg/kgの用量で催奇形作用が認められている。

- 2) 妊娠中に他のベンゾジアゼピン系化合物の投与を受けた患者の中に奇形児等の障害児を出産した例が対照群と比較して有意に多いとの疫学的調査が報告されている。

- ※3) 新生児に哺乳困難、筋緊張低下、嗜眠を起こすことが、また、他のベンゾジアゼピン系化合物 (ジアゼパム、ニトラゼパム) で黄疸の増強等の症状を起こすことが報告されている。

- 4) 分娩前に連用した場合、出産後新生児に禁断症状 (神経過敏、振戦、過緊張等) があらわれることが他のベンゾジアゼピン系化合物 (ジアゼパム) で報告されている。

- (2) 授乳中の投与に関し、次のような報告があり、また、新生児の黄疸を増強する可能性があるので授乳婦への投与は避けることが望ましいが、やむを得ず投与する場合は授乳を避けさせること。

- 1) ヒト母乳中に移行することが報告されている。

- 2) ヒト母乳中へ移行し、新生児に嗜眠、体重減少等を起こすことが他のベンゾジアゼピン系化合物 (ジアゼパム) で報告されている。

9. 小児への投与

小児に対する安全性は確立していない (使用経験が少ない)。

※10. 過量投与

本剤の過量投与が明白又は疑われた場合の処置としてフルマゼニル (ベンゾジアゼピン受容体拮抗剤) を投与する場合には、使用前にフルマゼニルの使用上の注意 (禁忌、慎重投与、相互作用等) を必ず読むこと。

※11. その他

投与した薬剤が特定されないままにフルマゼニル (ベンゾジアゼピン受容体拮抗剤) を投与された患者で、新たに本剤を投与する場合、本剤の鎮静・抗けいれん作用が変化、遅延するおそれがある。

※1995年12月改訂

hyc
ヒューマン・ヘルスケア

Elsal

イーザイ株式会社

〒112 東京都文京区小石川4-6-10

資料請求先：医薬事業部サイレース係

●ご使用に際しては添付文書をご参照ください。

E-L1 9712

神・経・修・復

メチコバルはイーザイが独自に合成・開発した、メコバラミン(メチルB₁₂)製剤です。メチコバルは核酸・蛋白合成、リン脂質合成を促進し、障害された神経を修復します(シット、シ、vito)。臨床的には末梢性神経障害に伴うしびれ、痛み、麻痺を改善します。注射は急性期や難治性の神経疾患、入院患者さんに適しています。副作用発現率は経口で0.96% (一四六/一五、一八〇例)で、主なものは食欲不振、胃腸障害、悪心、下痢などです。(一九八五年一月)

又、注射では0.27% (五/一、八六四例)で、主なものは発疹などです。(一九九〇年一月)



効能・効果

末梢性神経障害、
ビタミンB₁₂欠乏による巨赤芽球性貧血(注射液500 μ gのみ)

用法・用量

錠500 μ g：通常、成人は1日3錠(メコバラミンとして1日1,500 μ g)を3回に分けて経口投与する。ただし、年齢及び症状により適宜増減する。

錠250 μ g：通常、成人は1日6錠(メコバラミンとして1日1,500 μ g)を3回に分けて経口投与する。ただし、年齢及び症状により適宜増減する。

細粒：通常、成人は1日3包(メコバラミンとして1日1,500 μ g)を3回に分けて経口投与する。ただし、年齢及び症状により適宜増減する。

注射液500 μ g(末梢性神経障害の場合)：通常、成人は1日1回1アンブル(メコバラミンとして500 μ g)を週3回、筋肉内または静脈内に注射する。ただし、年齢及び症状により適宜増減する。

注射液500 μ g(巨赤芽球性貧血の場合)：通常、成人は1日1回1アンブル(メコバラミンとして500 μ g)を週3回、筋肉内または静脈内に注射する。約2カ月投与した後、維持療法として1〜3カ月に1回1アンブルを投与する。

●ご使用に際しては添付文書をご参照ください。

使用上の注意

1. 内服剤

(1) 一般的注意 効果がないのに、月余にわたって漫然と使用すべきでない。

(2) 副作用(まれに：0.1%未満、ときに：0.1〜5%未満、副詞なし；5%以上又は頻度不明) 1) 消化器：ときに食欲不振、悪心、下痢等があらわれることがある。2) 過敏症：まれに発疹があらわれることがある。

※(3) 適用上の注意 薬剤交付時(錠) PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシート)の誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜に刺入し、更には穿孔をおこして縦膈洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)

(4) その他 水銀及びその化合物を取り扱う職業従事者に長期にわたって大量に投与することは避けることが望ましい。

2. 注射剤

(1) 副作用(まれに：0.1%未満、ときに：0.1〜5%未満、副詞なし；5%以上又は頻度不明) 1) 過敏症：発疹等があらわれた場合は、投与を中止する。2) その他：ときに筋肉内注射部位の疼痛・硬結、また、まれに頭痛、発汗、発熱感があらわれることがある。

(2) 適用上の注意 1) 投与時：光分解をうけやすいので、開封後直ちに使用するとともに、遮光に留意すること。2) 筋肉内注射時：筋肉内に投与する場合は、組織・神経などへの影響を避けるため、下記の点に注意すること。ア) 同一部位への反復注射は避けること。なお、新生児、未熟児、乳児、小児には特に注意すること。イ) 神経走行部位を避けるよう注意すること。ウ) 注射針を刺入したとき、激痛を訴えたり、血液の逆流を見た場合には、直ちに針を抜き、部位をかえて注射すること。3) アンブルカット時：本品はワンポイントカットアンブルであるが、アンブルのカット部分をエタノール綿等で清拭してからカットすること。望ましい。

※1997年5月改訂

末梢性神経障害治療剤



メチコバル®

錠500 μ g・錠250 μ g/細粒/注射液500 μ g

メコバラミン製剤



イーザイ

ヒューマン・ヘルスケア企業

〒112-88 東京都文京区小石川4-6-10

資料請求先：医薬事業部メチコバル係

G-F2 9906

〈薬価基準収載〉

一日一回投与可能な抗不安薬

MEILAX[®]錠

メイラックス



メイラックスは
不安・抑うつ・睡眠障害
に対して有効な
ベンゾジアゼピン系薬剤です

持続性心身安定剤

向
指
要指

メイラックス[®]錠 1mg 2mg

MEILAX[®]-Tablets
ロフラゼパ酸エチル

薬価基準収載

効能・効果

- 神経症における不安・緊張・抑うつ・睡眠障害
- 心身症（胃・十二指腸潰瘍、慢性胃炎、過敏性腸症候群、自律神経失調症）における不安・緊張・抑うつ・睡眠障害

用法・用量

通常、成人には、ロフラゼパ酸エチルとして2mgを1日1～2回に分割経口投与する。なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。

使用上の注意（抜粋）

①一般的な注意

眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。

②禁忌（次の患者には投与しないこと）

- 1) 急性狭隅角緑内障のある患者〔眼圧を上昇させるおそれがある。〕
- 2) 重症筋無力症のある患者〔筋弛緩作用により症状を悪化させるおそれがある。〕

③慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- 1) 心障害のある患者
- 2) 肝障害、腎障害のある患者〔血中濃度が上昇するおそれがある。〕
- 3) 脳に器質的障害のある患者〔作用が強くあらわれることがある。〕
- 4) 高齢者〔「高齢者への投与」の項参照〕
- 5) 乳児・幼児・小児〔「乳児・幼児・小児への投与」の項参照〕
- 6) 衰弱患者〔副作用が発現しやすい〕


④相互作用



併用に注意すること

- 1) フェノチアジン誘導体（塩酸クロルプロマジン等）、バルビツール酸誘導体（フェノバルビタール等）等の中枢神経抑制剤、モノアミン酸化酵素阻害剤（塩酸サフラジン）〔両剤の作用が増強されることがある。〕
- 2) シメチジン〔本剤の血中濃度が上昇することがある。〕
- 3) アルコール〔両剤の作用が増強されることがある。〕

*使用上の注意の改訂に十分ご留意下さい。また、その他の使用上の注意などの詳細は、添付文書をご覧ください。

（資料請求先）

製造販売元  **明治製薬株式会社**
104 東京都中央区京橋2-4-16

技術導入  **明治サノフィ薬品株式会社**
販売提携  102 東京都千代田区紀尾井町3-23

「この頃のおじいちゃん、明るくてとてもイキイキしている。」
**おじいちゃんの
 ママころが、見えてきた。**



脳梗塞・脳出血後遺症に伴う意欲低下、情緒障害の改善に。



脳血管性精神症状改善剤 健保適用

アルナート[®]
 ALNERT[®] (塩酸ピフェメラン製剤) 指

錠50mg
 顆粒5%
 ドライシロップ5%

■効能・効果

下記疾患に伴う意欲低下、情緒障害の改善
 脳梗塞後遺症、脳出血後遺症

■用法・用量

錠50mg、顆粒5%：通常成人には、塩酸ピフェメランとして1回50mgを1日3回食後経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。
ドライシロップ5%：通常、成人には、塩酸ピフェメランとして1回50mgを用水で懸濁して1日3回食後経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

■使用上の注意

※1. 一般的な注意

本剤の投与期間は、臨床効果及び副作用の程度を考慮しながら慎重に決定するが、投与12週で効果が認められない場合には投与を中止すること。

2. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
 高齢者(「高齢者への投与」の項参照)

3. 相互作用

併用に注意すること

フルファリン(フルファリンの作用(プロトンポンプ時間の延長)を増強させることがある。)

4. 副作用(まれに：0.1%未満、ときに：0.1～5%未満、副詞なし：5%以上又は頻度不明)

1) 重大な副作用

(1) 胃腸出血：まれに胃腸出血があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2) 痙攣：まれに痙攣があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

2) その他の副作用

(1) 消化器：ときに食欲不振、胃部不快感、腹痛、胸やけ、嘔気、嘔吐、下痢、また、まれに口渇、がみ、便秘、食道閉塞感、腹部膨満感、流涎等があらわれることがある。

(2) 精神神経系：ときに眠気、頭痛、興奮、めまい、また、まれに不安、不眠、徘徊、焦燥感、せん妄、筋強剛、口部シスネジア、振戦、ふらつき、歩行障害等があらわれることがある。

(3) 過敏症：ときに発疹、また、まれに痒痒、光線過敏症等があらわれることがある。

(4) 肝臓：まれに黄疸、また、ときにGOT、GPT、Al-Pの上昇等があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(5) 腎臓：ときにBUNの上昇、また、まれにクレアチニンの上昇等があらわれることがある。

(6) 血液：ときに貧血、また、まれに白血球減少、血小板減少等があらわれることがある。

(7) その他：まれに口腔粘膜刺激、咽喉頭痛、ほてり、動悸、脱力感、倦怠感、胸痛、耳鳴、筋痛、しびれ感、コレステロールの上昇があらわれることがある。

5. 高齢者への投与

本剤は、主として腎臓から排泄される(「体内薬物動態」参照)が、高齢者では腎機能が低下していることが多いため高い血中濃度が持続するおそれがあるので、注意すること。

6. 妊婦・授乳婦への投与

1) 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。

2) 動物実験で母乳中へ移行することが報告されているので、授乳中の婦人への投与は避けることが望ましいが、やむをえず投与する場合は授乳を避けさせること。

7. 小児への投与

小児に対する安全性は確立していない。(使用経験がない)

8. 適用上の注意

1) 服用時(錠、顆粒)

薬剤自身の性質である苦味感又は刺激感があることがあるので、水とともに速やかに服用させること。

2) 服用時(ドライシロップ)

コップに約50mlの水を注ぎ、ドライシロップ1gを入れてよくかき混ぜる。コップの内壁にドライシロップが残った場合は、水で共洗いして服薬させること。

3) 薬剤交付時(錠)

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの膜飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)

※1997.4.改訂

●詳細につきましては製品添付文書をご参照下さい。

発売元 **フジサワ**
 大阪府中央区道徳町3-4-7 〒541

製造元 **三菱化学**
 東京都千代田区丸の内2-5-2 100

資料請求先：藤沢薬品工業(株)医薬事業部

作成年月1997年4月